

IAUD Newsletter vol.3 第9号 (2010年12月号) 目次

1. 特集：「第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議 in はままつ」速報
 ＜その2＞IAUD セッション・IAUD の研究活動の紹介 1
2. 特別寄稿：リアルタイム速記システム「はやとくん」での字幕付け報告 13
3. Case Study:労働環境プロジェクト
 ～オフィスセキュリティのユニヴァーサルデザイン～ 17
4. 世界のUD 動向：「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」、
 「サステナブルデザイン国際会議－ Small Conference」ほか 22

先月号では浜松市で開催された国際 UD 会議の速報として全体概要をお伝えしましたが、今回は IAUD 研究部会の活動内容について併設展示会で展示されたパネルの内容を中心にご紹介します。また、今回の国際会議で、電子速記システム「はやとくん」を使用した字幕付けのボランティアでお世話になった電子速記研究会の方から寄稿していただきました。通常のパソコンによる要約筆記とは異なり、速記用の特殊なタイプライターを使用した精度の高い字幕に驚かれた方もいるかと思います。また、11月1日のパネルディスカッション「裁判のUD」でも紹介されましたが、裁判所速記官の皆さんの現状なども合わせて会議を振り返っていただきます。

特集：

「第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議 in はままつ」速報

＜その2＞ IAUD セッション・IAUD の研究活動の紹介



本会議2日目 11月1日午後、IAUD 研究部会から各プロジェクト・WGの活動紹介が行われました。



第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議
2010 in はままつ
The 3rd International Conference
for Universal Design in HAMAMATSU 2010

<開催概要> テーマ：人と地球のために一持続可能な共生社会の実現へ向けて
日 程：2010年10月30日（土曜日）～11月3日（水曜日・祝日）
場 所：静岡県浜松市・アクトシティ浜松、静岡文化芸術大学ほか
参加者：合計 延べ約14,110名
会議登録者数：延べ約1,500名（公開シンポジウム参加者含む）
展示会来場者：延べ12,610名

本会議2日目 11月1日（月曜日）

IAUD セッション「IAUDの研究活動の紹介」

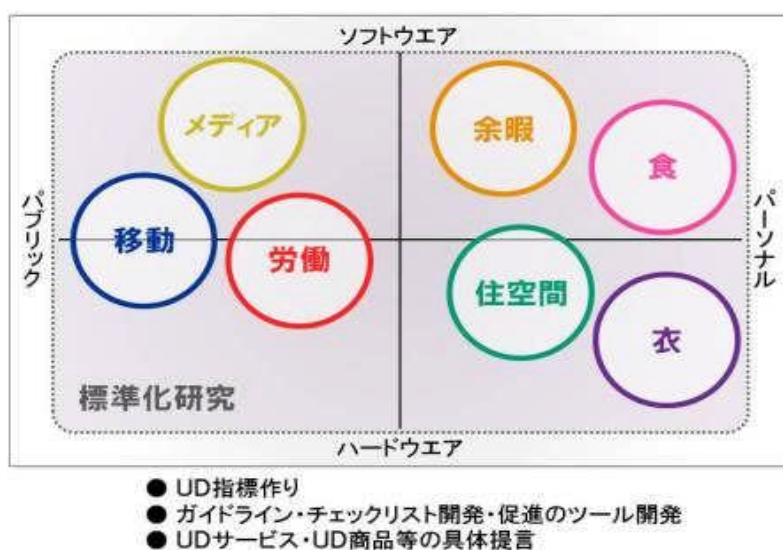


発表に先立ち、布垣研究部会副会長から IAUD 研究部会の目標と組織、活動概要と位置付けが紹介され、続いて8つのプロジェクト（PJ）およびワーキンググループ（WG）から活動報告が行われました。

<目標> UD 研究活動を通じたすべての人々が暮らしやすい社会の実現

- ・ UD を軸とした業種を越えた情報共有と共同研究推進
- ・ さまざまな生活シーンで魅力ある製品・サービスの提言推進
- ・ 成果・情報の社会への発信、公開の強化

《組織図》



以下各 PJ および WG の活動内容を、発表順に併設展示会場に展示されたパネルでご紹介します。

①テレビCM字幕:みんなが楽しめるCM字幕の実現に向けて



実現への動きが出てきたCM字幕。今後はこの動きが加速するよう活動していく。

現在、番組の字幕放送は総放送時間の約半分^(※)に達しています。しかしCMには字幕が付与されていません。私たちは2006年より、なぜCMには字幕がないのか?どうすれば字幕がつくのか?について調査・研究、提言をしてきました。今年に入り、CM字幕の実施が行われるなど、実現に向けた動きが出てきました。

(※)総務省発表の平成21年度実績。(NHK総合47.6%、在京キー5局平均43.9%)

2006~2009年までの活動

- 放送局や字幕放送システムの調査
- 企業や生活者へのアンケート
- CM字幕サンプルの制作と反響調査
- 企業への啓発活動
- 放送・広告団体との意見交換会
- 海外への取組み、有識者研究会実施

余暇PJの2010年度の活動

- 啓発活動:CM字幕冊子制作と声の吸い上げ
 - CMに字幕が欲しい? 必要! 95%
 - こうした啓発は必要? 欲しい!! 95%
 - 聴覚障がいのある生活者を中心にアンケートを実施
- Web上でのCM字幕付与活動の推進
 - ネットでの現状を調査。
 - 推奨案を作成し、IAUD企業へ推進を依頼。
 - 2009年10月調査 1社 → 2010年9月調査 4社
- 関連3団体^(※)とIAUD定期情報交換会の実施
 - (※)日本民間放送連盟、日本アドバタイザーズ協会、日本広告業協会

2010年CM字幕に関する動き

- 一社提供番組での実施 クローズドキャプション (バナソニック)
- デジタル放送推進協会と放送局の実施 クローズドキャプション (地デジ普及促進CMにて)
- 定期的なCMでの実施 オープンキャプション (富士通)



今後は、テレビだけでなくWebに公開されたCMへの字幕付与推進、生活者への啓発などを中心に活動を継続していきます。

②交流会のUD:みんなが笑顔で楽しめる交流会の実現に向けて

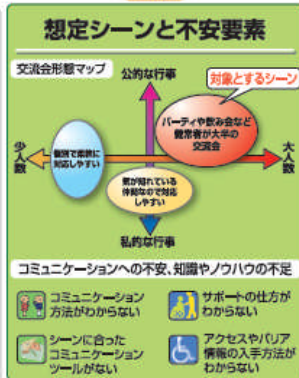
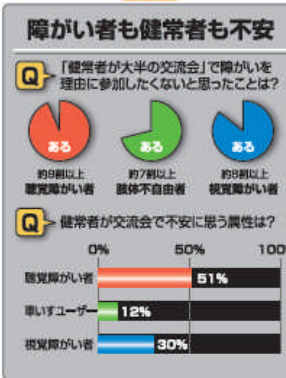


実際の交流を通じて本音を引き出し、誰もが楽しめる交流会のノウハウやツールを提案。

懇親会や飲み会で、障がいのある人たちが本当に楽しめているのか?といった疑問から、アンケート調査や本音を引き出す会を実施。交流会におけるコミュニケーションの不安や情報・知識の不足が判明。

私たちはみんなが笑顔になれるノウハウや楽しいコミュニケーションツールを検討、試作しました。

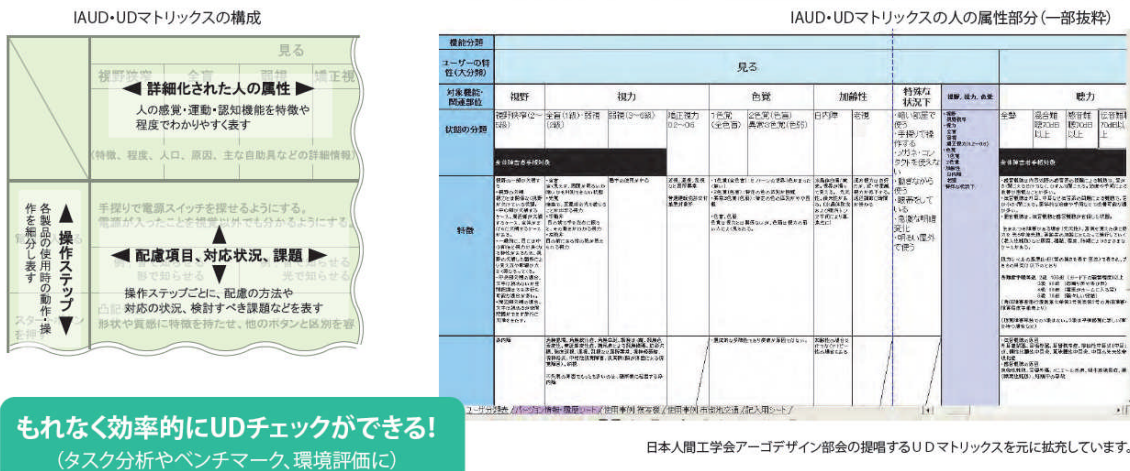
調査 '09/9 → 分析 '10/3 → 提案 '10/9 → 検証 現在 '11/3 → Ver1完成



今後はコミュニケーションブックや筆談ツールを実際にみなさんに使用していただき、ご意見を反映させ、内容の向上を図っていきます。こうした情報を企業だけでなく、お店やネットへの展開を計画しています。

1. UD開発支援ツール 「IAUD・UDマトリックス」

UD製品・サービスの開発は、多様な人を正しく理解することから始まります。有識者や障がいのある方へのヒアリングを重ねながら、ひとりひとりの身体的能力差や加齢で生じる能力低下などの人の属性をデータ化しました。また、エクセルシート形式でカスタマイズしやすくし、現場で活かせる開発支援ツールにまとめました。



2. UD開発・教育支援ツール 「ユーザー情報集・事例集」

IAUD・UDマトリックスの中から人の属性を切り出し、具体的な配慮事例を加えてまとめました。身近に置いて手軽にいつでもどこでも利用することができ、また、UD人材育成の場でもお使いいただけます。

冊子版



web版



いつでもどこでも確認できる！
(出先での評価活動に) UD教育教材として

開発者間でユーザー情報を共有できる！
(規定するユーザーイメージの共有に)

3. 今後の活動

「ユーザー情報集(Web版)」を一般公開いたします。(2010年10月25日よりIAUDのWebサイトで公開)
幅広い現場の方々にご利用いただき、UD社会実現に向けての一助になれば幸いです。
今後は、全世界視点でのデータ収集や属性の深掘を進めると同時に、成果物自体のアクセシビリティを高めて、より多くの方々にUD情報を発信していきます。

【計画】

①高齢者認知特性の追調査

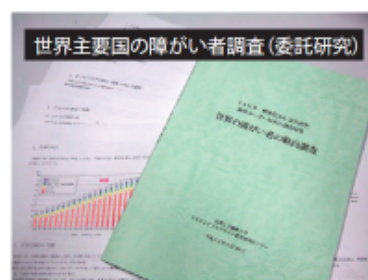
加齢による認知機能の低下について、さらに深掘します。

②世界のUD事情調査

世界の統計データや配慮事例を収集し、IAUD・UDマトリックスをVer.Upします。

③ユーザー情報集(Web版)のアクセシビリティ強化

英訳化や視覚に障がいのある方への配慮を行います。



労働環境プロジェクト
研究部会

1/2

労働環境プロジェクトでは、様々な特性があるたくさんの人たちが、気持ちよく働ける未来オフィスの労働環境を提供することを目的としています。

オフィスセキュリティのユニヴァーサルデザイン

オフィスのセキュリティ化に伴い、ICカードによって個人認証を行うことが増えてきました。タッチするという簡単な操作ですが、UD的な課題も多く見受けられ、これを解決することを目指して活動しています。

ICカードの利用シーンと困りごと例

入退館・入退室

- リーダーからゲートへのアクセス
- エラー時の解りにくさ
- リーダーとドアの位置関係
- 無理な姿勢での認証
- 特殊機能の解りづらさ

居室内

- 無理な姿勢での認証
- カードの指し忘れによる居室からの締め出し
- リーダーの場所が不統一
- 認証のタイミングが不明確

食堂

- 視覚によるインターフェース
- タイミングの解りづらさ

解決の方向性

音・色など
エラーの複数提示

設置場所の統一
リーダーの配置

ゲート開錠時間と
通過時間の関係性

リーダーの場所を
明確化

置き忘れ防止

リーダーのアイコンを
明確化

視覚以外の
情報提示

労働環境プロジェクト
研究部会

2/2

解決の方向性検証とUDマトリックスへの展開

解決の方向性の検証と今後の展開

セキュリティの3要素である機密性・完全性・可用性のうち、「可用性」に関してUDの視点が欠けている。筑波技術大学の聴覚に障害のある学生と共にワークショップを開催、視線の動きと情報提示場所の関係性を整理し、ユーザビリティとアクセシビリティに配慮された解決案を検証。

今後、更に障害のある学生とのワークショップ及び調査を継続し基準値の提言を目指す。

UDマトリックスへの展開

		視 覚		聴 覚	移 動・操 作	特殊な状況
		全 盲	弱視・老眼等	全 聾 難 聴	上肢・下肢障害	
入室時の認証	リーダーを確認	■ 音・サインで誘導する ■ 点字ブロックや手摺りで誘導する	■ 手摺りで誘導する ■ リーダー機器と設置場所との色のコントラストを大きくする			■ 暗い場所でもリーダーの位置を確認しやすくする
	カードをかざす	■ 触覚的にリーダー認証部の位置がわかるようにする	■ リーダー機器と認証部との色のコントラストを大きくする		■ 利用者を想定した設置高さの標準寸法を検討する ■ 開錠時間を人により変化させる	■ 荷物を持っていてもタッチしやすい設置位置とする
	開錠を確認する	■ 認証の正常異常がわかりやすい確認音が鳴る	■ 認証の正常異常がわかりやすい確認音が鳴る	■ 認証の正常異常を振動光で知らせる ■ 周波数の異なる確認音で知らせる	■ リーダーと作用点を近い場所に設定する ■ 体の向きを変えずによいリーダーの設置位置を検討する	■ 騒音のある場所でも確認できるようにする





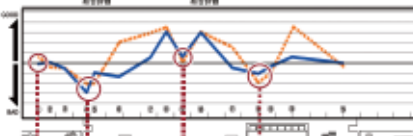
より分かりやすく「予測」しやすい案内情報へ

JR静岡～新静岡駅 移動情報及び、具体的アイデアの提案

●調査ルート



●調査結果のまとめ



1. 「新静岡駅」への案内が無い
2. 駅前ロータリーに地下通路への案内が不足
3. エレベーターの行き先案内などが不足
4. 商店街の通りが長く、不安になる

●商店街の提案指針

1. バス停を利用し、案内表示で誘導
2. 主要ランドマークまで地面サインで誘導



●エレベーター・乗り場の提案指針

1. エレベーター内や乗り場に行先の風置、方向を表記
2. 降りてからも地面サインで誘導



●駅構内提案指針

1. 行き先表示に「地下道をくぐる」ピクトを表現
2. 矢印形状で距離を表現




●ロータリー広場提案指針

1. 「地下道をくぐる」ピクトと、案内の字幕
2. 矢印は円柱から平面へ




●エレベーター乗り場の提案指針

1. エレベーターにピクトを大きく表示
2. 行き先を伝え、利用者が安心感を得る





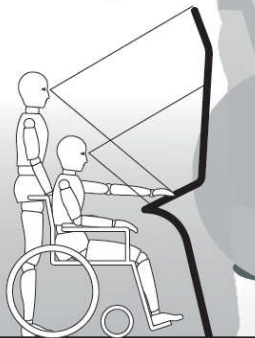


MOO MAP

MOO MAP は Moving Map のことを表します。
MOO MAP stands for the Moving Map.

地上と地下が立体に見える擬似3D MAP。
複雑な地下通路も疑似体験により、
空間を直感的に予測しやすくなります。

Virtual 3D map presenting both ground and underground levels stereoscopically.
Even for extremely complicated underground passages, this map provides a virtual experience of the journey ahead, allowing the user to capture a sense of space intuitively.



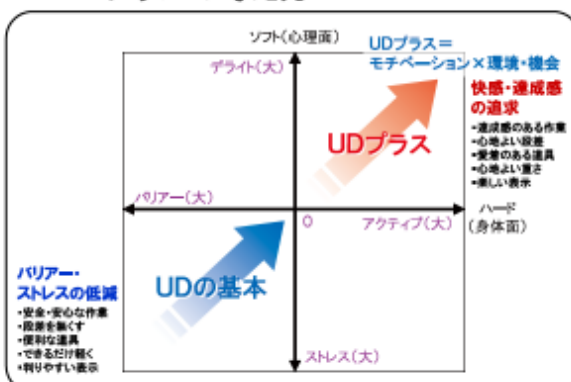

誰もが心豊かに暮らせる住空間づくりを目標に、生活シーンからのアプローチによるテーマ研究を進めており、様々な視点から「楽しいUD」の実現を目指しています。

1.機能低下を防ぎ向上させる、新たなUDの提案

身体的、心理的に適正な負荷(刺激)を与えることで、機能低下を防ぎ向上させるというUDプラスのコンセプトで、新たなUDのあり方の事例研究に取り組んでいます。

仮説:『UDプラス=モチベーション×環境・機会』

■UDプラスの考え方



■UDプラスコンセプトの検証

早稲田大学渡辺仁史研との共同研究による実証実験

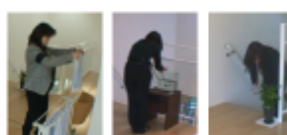
●空間の仕掛け



開放的空間

閉鎖的空間

●モチベーションの仕掛け



洗濯物を干す

魚に餌をやる

植栽に水をやる

日常生活の場面において、空間(環境)や生活行為の質(仕掛け)により、行動(階段昇降)するための達成感や楽しさが増大する効果が確認できた

2.先端事例によるUD解決の視点の調査研究

住空間、各種施設などの先端事例調査を実施し、UDプラスの視点による分析を展開しながら、国際UD協議会内外への情報発信を進めています。

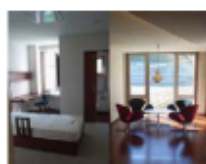
■おもな調査事例(2007年～2010年)



三鷹天命反転住宅



身体感覚への刺激
単一的環境への固着
情報の多い空間
自由に工夫できる室内



大塚千里リハビリテーション病院



適度なバリアある環境
社会復帰のための場
生活意識への喚起



奥多摩森林セラピーロード



アクティビティを誘発
自然との一体感
五感に訴える仕掛け
心身よい活動と休息



高知沢田マンション



楽しい負荷・刺激
自給自足の環境共生
コミュニケーションの活性



パナホーム「子供と元気が育つ家」



日常生活に過度な負荷
(楽しい負荷)
健やかな心身形成
五感への刺激
子供に身体運動の機会



夢のみずうみ村



挑戦の機会
能力維持の仕掛け
モチベーションの維持
他者との触れ合い

UD的な配慮がUDプラスの考え方につながる提言を含み始めている、ということが読み取れてきています

衣のUDプロジェクト
研究部会



1/2

着易さ、使い易さのユニバーサルデザインを美しさ・格好良さに繋げることを目標とし、産学協同で取り組んでいます

～その機能は美しいか～ UDジャケットの試作と評価

■ おしゃれで機能性の高いUDジャケットの実現を目指す

プロジェクトメンバーであるNPO法人ユニバーサルファッション協会の知見と素材メーカーとの勉強会による素材の検討をもとにコンセプトを設定し、UDジャケットを作成しました。

■ UDジャケットのコンセプト

～その機能は美しいか～

このジャケットは、着脱にかかる時間を短縮することで、自分の大切な時間として有効に使ってほしいとの着眼点から開発をスタートしました。オシャレ感にもこだわり、これを着ることで、楽しくて元気が沸き、ショッピングやワーキングなどに活動に意欲が沸くようなジャケットを目指しています。



- 樹脂ファスナーはスナップ式を採用
- 袖下がシームレスなので肘が通りやすい
- 袖口のファスナーで腕の通しをスムーズに
- 収納可能なオシャレなフード付
- 収納力抜群のファスナーポケット
- ファスナーは左右使いやすい方向から使用できます

衣のUDプロジェクト
研究部会



2/2

■ UDジャケットの評価試験と結果

● 試着によるアンケート調査

項目	良い	悪い	普通
動きやすさ	91.3%	4.3%	4.3%
生地	99.0%	0.0%	0.0%
着心地	56.5%	26.1%	17.4%
デザイン	47.7%	34.1%	18.2%
着脱し易さ	45.8%	25.0%	29.2%
バランス	38.9%	37.2%	23.9%
ファスナーの操作性	36.4%	44.3%	19.3%

● 評価されたポイント

- 袖下が伸びるので腕が通しやすい
- 肌触りが良いため着心地が良い
- 生地に伸縮性があり軽くて動きやすい
- ファスナーが面白い。特に止め具。
- コンパクトになるので持ち運びが出来る

● 着脱試験

袖から脇にかけて縫い目の無い一枚の布なので、肩や肘への負担が軽減され、引っかかりも無く、腕を通すことが楽にできたと評価を受けました。



● 要望ポイント

- 止め具の位置
- ファスナーが壊れていないため使いづらい
- ファスナーがかんでしまう
- もう少しゆったりした方がよい
- 袖が長めであったためバランスが悪い
- ファスナーの代わりにマジックテープ

■ 今後の課題と目標

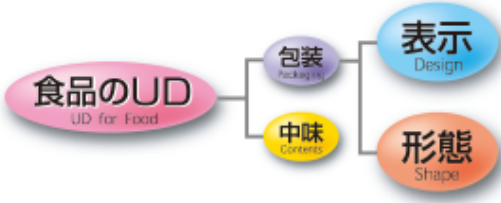
最終目標はUDジャケットの製品化です。
集計した結果をさらに精査・分析し、改善点を抽出し、それをベースに次のPDCAを推進します。

食のUD プロジェクト
研究部会



食のUDプロジェクト概要

「食生活」をUD視点で快適に



食品のUD
UD for Food

包装
Packaging

中味
Contents

表示
Design

形態
Shape

「食のUDプロジェクト」は、2006年の発足以来、UDの観点から主に食品パッケージに共通する項目をテーマに活動しております。「食」は人が生活をする上で最も重要な行為のひとつです。私たちは生活者にとって快適な「食品パッケージ（表示～形態）」のあるべき姿を考え、そのアプローチを行っています。

1. 「やけど注意」ピクトグラムの標準化推進

ピクトグラム3種の提案と普及活動

新しい「やけど注意」ピクトグラムのデザインは「JIS消費者用警告図記号一試験の手順JIS S 0102」に準拠した試験の合格基準となる点数評価をクリアし、国際ユニヴァーサルデザイン協議会から2010年4月にリリース。「やけど注意」を喚起する標準記号として公開されました。



やけど注意 やけど注意 蒸気注意

IAUDよりリリースされた「やけど注意」「蒸気注意」ピクトグラム3種

新しい「やけど注意」ピクトグラムを採用したレトルト食品



「やさしい暮らし」「レンジクック」
キユーピー株式会社

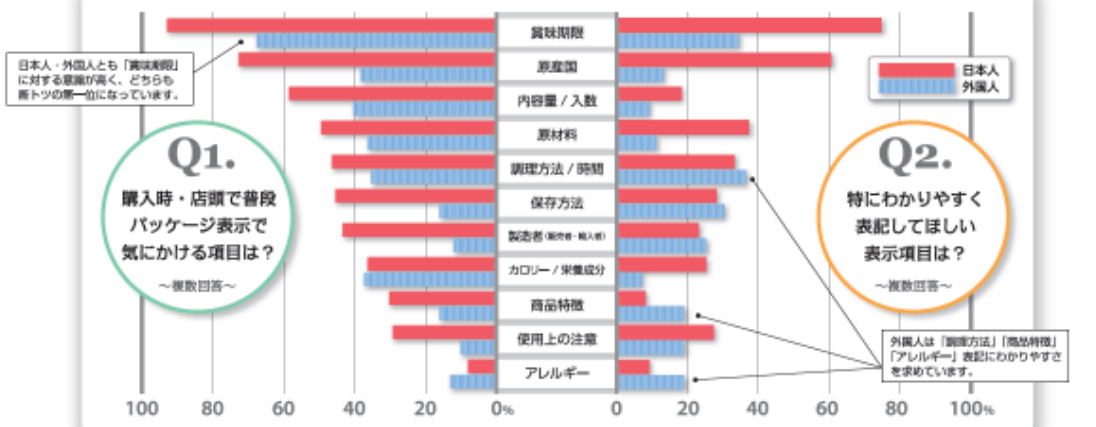
食のUD プロジェクト
研究部会



2. 食品パッケージに関するWEB調査

「日本人 vs 外国人」パッケージに対する意識調査比較

食のUDでは、生活者の方々が身近に感じている「パッケージ」に対する不満や要望を集約すべく、WEBを使った「パッケージの使い勝手」生活者調査を実施いたしました。



日本人 外国人

日本人・外国人とも「賞味期限」に対する意識が高く、どちらも最トツの第一位になっています。

外国人は「調理方法」「商品特徴」「アレルギー」表記にわかりやすさを求めています。

Q1. 購入時・店頭で普段パッケージ表示で気にかける項目は？
～複数回答～

Q2. 特にわかりやすく表記してほしい表示項目は？
～複数回答～

！「食のUDプロジェクト」ではこのような調査から現状を把握し、「食」が楽しくなるような工夫や配慮を今後も探求していきたいと考えています。

メディアのUDプロジェクト
研究部会



色のユニバーサルデザインを広げるイメージ配色を提言

メディアにおける主要素である「色」をテーマに、UDの課題を研究。
関係機関に提言し、情報保障への社会的配慮を促進する。

●課題の発見:
ユニバーサルデザイン推奨配色セット
(全20色)が発表。

▼

情報保障に加え、イメージを感じさせる
配色ができないだろうか?

●研究の目的:
メディアのカラー化が進むなか、
5色配色の判別性を確保し、
その配色が持つイメージを伝える。

●検証の方法:
代表的な配色イメージ・スケール
を用い、カスタマイズしたカラーUD
の色選択ツール「UDing CFUD」
で判別性を検証。

●ユニバーサルデザイン推奨配色セット

小面積用の高彩度の色(アクセントカラー)

赤	黄	緑	青	空色	ピンク	オレンジ	紫	茶色
---	---	---	---	----	-----	------	---	----

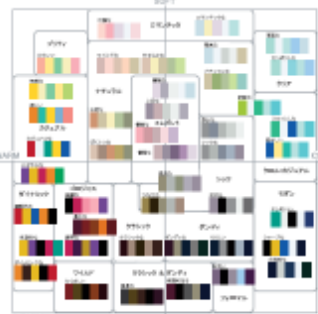
大面積用の低彩度の色(ベースカラー)

クリーム	明るい緑	明るい空色	明るいピンク	ベージュ	明るい黄緑	明るい紫
------	------	-------	--------	------	-------	------

無彩色

白	明るいグレー	グレー	黒
---	--------	-----	---

●5色配色イメージ・スケール



●UDing CFUD × NCD H&T130C



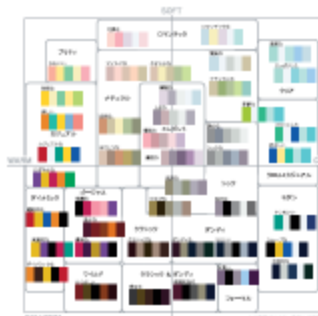
メディアのUDプロジェクト
研究部会



●検証のプロセス:

- ①35個のイメージワード毎に
代表的な4つの配色を選定し、
「UDing CFUD」による絞り込み。
- ②適合配色がない場合、さらに
10の候補から絞り込み。
- ③候補のなかにも適合配色がな
い場合、3色配色から絞り込み後
に調整、カラーUD配色イメージ・
スケールを作成。

●5色配色イメージ・スケール



➔

●カラーUD配色イメージ・スケール



●適用事例:

完成した「カラーUD配色イメージ・スケール」をもとに適用事例を作成。
カラー化が進む「教科書」をテーマに、様々な教科でケーススタディを行なう。



結果は画面でご確認ください。

研究部会では国際UD会議に参加できなかった会員の皆さまにもご報告するため、現在、発表資料についてまとめ直す作業を進めています。作業が終了しだい、本誌やIAUDのホームページでお知らせする予定ですので、しばらくお待ちください。

以上

リアルタイム速記システム「はやとくん」での字幕付け報告

電子速記研究会

事務局長 小西貴美子

1. はじめまして、裁判所速記官です

「速記」というと、日本では国会速記士が有名で、手書き速記を思い浮かべる方が多いでしょう。

私たち「裁判所速記官」は、速記用の特殊なタイプライター（右の写真は米国製ステンチュラ）を用いた機械速記で仕事を行っています。

余り存在を知られてはいませんが、機械速記では約 60 年の歴史を持っています。1 分間に 190 語、約 380 字の速度試験に合格した者が裁判所速記官になります。デジタル化は約 15 年前に成功し、開発者の名古屋の遠藤基資

（元裁判所速記官）を中心に電子速記研究会を設立し、リアルタイム速記システム（愛称「はやとくん」）の開発と普及を行っています。

ボランティアの字幕付けは、リアルタイム技術の向上と宣伝を兼ねて約 10 年前から行ってきましたが、日本弁護士連合会の人権擁護大会や司法シンポジウムなどが主で、情報保障の世界ではまだ余り知られていない存在だと思います。



2. 国際ユニヴァーサルデザイン会議での情報保障

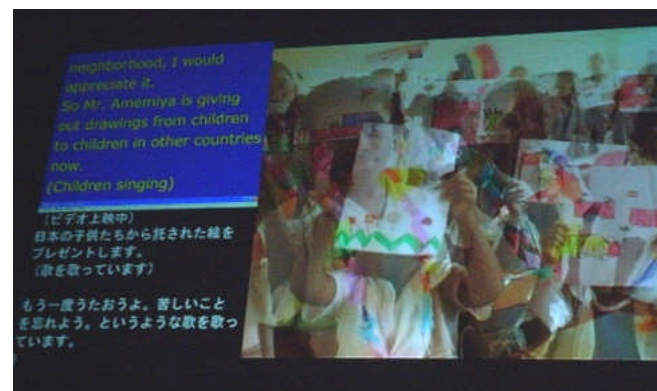
今回、そんな私たちを IAUD に大抜擢していただき、「第 3 回国際ユニヴァーサルデザイン会議」では、10 月 30、31 日のメインホールでの字幕付けを行わせていただきました。2 日間で延べ 14 名（1 日目 13 名、2 日目 10 名）の裁判所速記官が、札幌、東京、仙台、新潟、静岡、大阪、愛媛から参加しました。

いつもは字幕が脇役のことが多いですが、今回は舞台そのものもユニヴァーサルデザインということで、英語字幕やパワーポイントの画面とともに舞台中央に大きく字幕が掲げられ、主役級の扱いだったのにまず驚きました。

もちろん手話通訳と磁気ループも配置され、さすがユニヴァーサルデザインの会議の情報保障でした。

30 日は、寛仁親王殿下をはじめとする開会式挨拶は日本語だったのですが、基調講演の 1 つと、パネルディスカッションのパネリスト 4 名は外国の方で英語だったので、同時通訳のレシーバーを付けての字幕付けでした。

英語の字幕付けには、米国から速記者が来ていましたが、日米速記者で一緒に字幕を付けるというのも初めてでした。お互いの字幕を見な



がら、表示する早さを競うように付けたり、「(子供たちが歌っている)」など英語の字幕を参考にして付けたりするのは、本当に楽しい経験でした。お互いのステンチュラやシステムを紹介し合ったり、2日間ですっかり仲良しになれました。

英語の字幕は、1人が速記して、校正者なしで、タイムラグ2秒で単語の半分の長さからもう表示されるのが印象的でした。

日本語の字幕は、1人が速記して、1人校正者が付きます。漢字変換の正解率を上げるためもあり、句点ぐらいまでの文章をためてから出すので、字幕で表示されるときにはまとまった文章で送られます。

辞書にない言葉が出てくると、校正者が正しく漢字変換をさせるのに手間取るので、表示が遅れます。そのため、字幕付けのときは、速記と校正者の組を複数作ってリレーしていき、表示が遅れないようにします。機械トラブルも考えて、通常は速記者と校正者3組以上と、画面切り換えや交替の指示を出す者など、多人数になります。

事前に資料をできるだけ集めて、辞書登録や速記略語も準備していますが、それでも網羅はできないので、交替の合間に辞書を追加して登録をしたりしています。同音異義語が多く、漢字変換がある日本語は、本当に大変です。

普段の法廷では、速記官は記録を作成するだけで、字幕表示まではしないので、1人が長時間連続で速記して、約98%の正解率で日本語にもできています。どのくらいまで正解率が上がれば、米国の速記者のように字幕を1人で付けられるのだろう。どのくらいの差がまだあるのだろうと思いました。

また、今回は、英語の同時通訳者との連携もありました。同時通訳者は、舞台横のブースの中の字幕が見える位置にいて、英語の字幕を参考にしながらか通訳しているようでした。

英語の話者が話すと、間髪を入れずに英語の字幕が付き、同時通訳のレシーバーから日本語が流れ、通訳された結果が日本語の字幕で表示されていくという連携作業で、舞台そのものが言語の壁をなくすユニヴァーサルデザインとなっていて見事でした。

会場には外国の方の参加も多かったので、耳の聴こえの悪い方ばかりではなく、違う国の言葉を理解するというためにもとても役に立ったのではないかと思います。

字幕付けをしていると、外国の講師の方から、速記官に話しかけられる機会が多くありました。パワーポイントの資料を前もって見せようとしてくださったり、話すのが速すぎないかと聞いてくださったり、いろいろご配慮いただきました。



外国では、速記者による字幕付けが根付いているからだろうかと思いましたが、講師の方自身に情報保障への配慮が身に付いているようでした。情報保障をする側にとっては、話者と連携ができるのは、何にも勝る非常にありがたいことです。

速記もしやすく、文字も正確に出せ、読む方にも速度がゆっくりの字幕が送れます。

ハード面だけではなく、話者の情報保障への協力姿勢が日本でももっと広まればいいなと思いました。また、このすばらしい情報保障のユニヴァーサルデザインが、こういった国際会議だけでなく、例えば裁判の分野でもこの環境が実現できたら、どんなに通訳事件がスムーズに正確になるだろうと思いました。

3. 裁判所速記官の抱えている課題

皆様に見ていただいた裁判所速記官による字幕付けですが、実は、最高裁にはまだ見てもらったことがありません。

最高裁は、速記官制度は廃止して音声認識に移行する方針なので、「はやとくん」システムも、速記官による字幕付けも、決して見ようとはしないのです。

1997年に、最高裁判所は裁判官会議で、「速記タイプの製造維持困難」と「養成人員の確保困難」のため速記官の養成停止を決定しました。

1996年には全国で825人いた速記官も、2010年の現在では240人にまで減少してしまいました。（文末資料1参照）

この間、速記官は、リアルタイム速記で迅速な記録作成や、聴覚障害者の情報保障ができることを訴えて、最高裁に速記官の養成再開をお願いしてきましたが、一度決めたことで撤回はあり得ないと、「はやとくん」を見ることさえ拒否されている状態です。

全国で9割以上の速記官が、自分で勉強して「はやとくん」を導入し、自費でステンチュラを購入しています。

最高裁が、「はやとくん」とステンチュラを裁判所に正式導入して、速記官がリアルタイム速記技術を生かした仕事ができるようになることが課題です。

このような状況なので、今回、寛仁親王殿下をはじめ世界中の方に、日本のリアルタイム速記技術を見ていただけたことは、とても裁判所速記官にとってはうれしいことでした。

4年後の次の国際会議の折には、ますます速記官数は減少しているでしょうし、消滅の前に見ただけで本当によかったと思います。

4. 諸外国の速記事情

機械速記は、世界28か国で使われているそうなので、諸外国と言っても一部の御紹介ですが、米国には今6万2千人の速記者がいて、そのほかに3千人のリアルタイム速記者がいるそうです。テレビのクローズドキャプション、議会、裁判所、教会、教育など様々な分野で速記者が活躍しています。

また、ハーグの国際刑事裁判所では、リアルタイム速記によって記録を取ることが定められており、即時に英語またはフランス語で表示され、午前の審理速記録は午後ホームページに掲載されるとのことです。（http://d.hatena.ne.jp/uema2_jp/20060519、ICCは今「国際刑事裁判所の現状と加盟問題に関する一考察」）

韓国では、昨年1月から陪審員制度が導入されました。そこでは「法院は特別な事情がない限り、公判廷での審理を速記士をして速記するようにするとか、録音装置または映像録画装置を使っ

て録音または映像録画しなければならない」と明確に速記士による記録作成の定めがされているとのことです。

(原文は http://korea.nifty.com/news/News_read.asp?nArticleID=39584)

世界のハイテクコートやサイバーコートと呼ばれる法廷でも速記者が活躍しており、今後ますますリアルタイム速記は必要とされる技術だと思います。一覧性のない映像や音声を便利に使うには、同時に文字情報を付けることが大切です。

米国では、大学の模擬裁判で、州を越えて法廷がつながり、遠隔地にいても映像と音声と文字情報が送られて裁判を行うことができるそうです。

諸外国では、速記者は裁判のUDを担う活躍をしているのに、日本では速記官が消滅の一途をたどっているのは本当に残念でなりません。

(裁判所速記官や「はやとくん」について、もっと詳しくお知りになりたい方は、こちらのHPをご覧ください。速記官制度を守る会ブログ <http://www3.sokkikan.coco.jp/>、電子速記研究会 <http://www2.hayatokun.coco.jp/>、電子速記研究会ブログ <http://kimi-koni.cocolog-nifty.com/>)

以上

参考資料 1



Case study: 労働環境プロジェクト

オフィスセキュリティのユニヴァーサルデザイン

株式会社 リコー 室井 哲也

●はじめに

労働環境プロジェクト(以下 PJ)は、さまざまな特性を持つすべての人が気持ち良く働くことのできる未来オフィスの労働環境を実現することを目指して活動しています。

本報告では、近年取り組んでいるオフィスセキュリティのユニヴァーサルデザイン (以下 UD) について報告します。

●個人認証システムの導入率は 29.2%

オフィスには数多くの機能が求められていますが、近年、同時多発テロ、個人情報保護法、内部統制などの理由で、セキュリティの比重が大きくなってきました。

セキュリティの 3 要素は、機密性 Confidentiality、完全性 Integrity、可用性 Availability の 3 つであると言われています。機密性は、情報にアクセスできる人が限定できること、完全性は、情報に変化なく完全であること (このために記録をとる、というようなことが必要になってきます)、可用性は必要な人が必要なときに確実に情報にアクセスできることです。このために、単なる鍵ではなく、個人認証システムがオフィスに導入されています。

2010 年 3 月に労働環境 PJ が行なったインターネット調査によれば、オフィスの入退室や PC、オフィス什器の利用の際に、何らかの個人認証システムがある、と答えた人は 29.2%でした (働いている人 3,196 人中 934 人がオフィスにあると回答)。

個人認証システムには、IC カード、パスワード、生体認証などいくつかの種類があります。オフィスの中で利用目的によって、使用される種類が異なっていますが、入退室では、IC カード型 (図 1) を利用するのが多いようです。図 2、図 3 に示すデータは、2010 年 3 月のインターネット調査 (母数 1,000 人) によるものです (以降のデータも同様)。

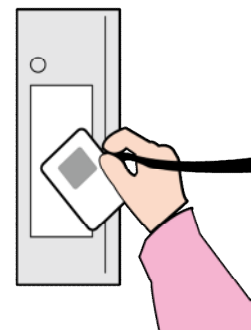


図 1 IC カード型の個人認証

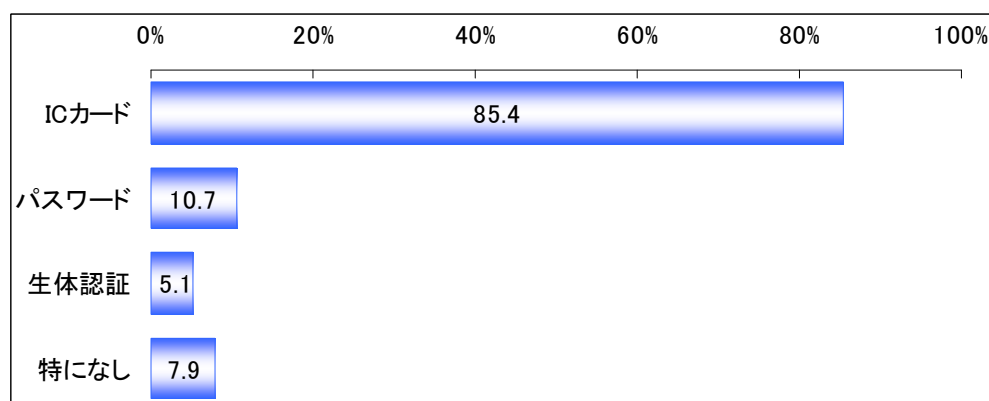


図 2 入退室で利用する個人認証の種類

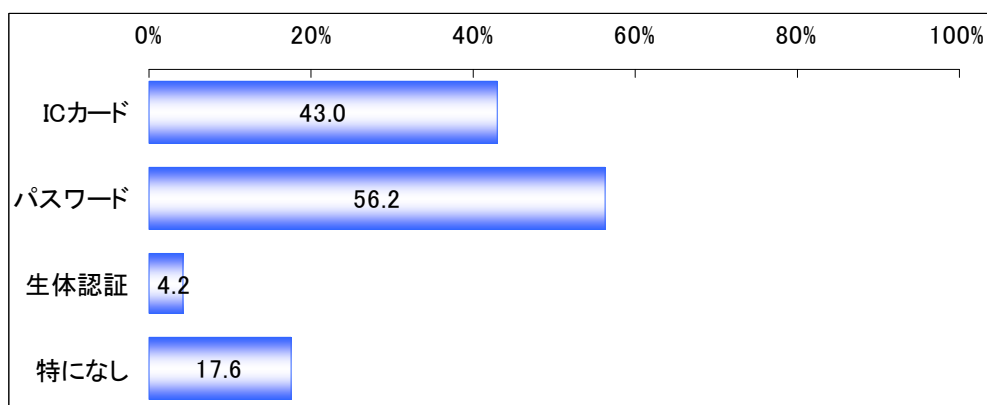


図3 IT機器、設備利用での個人認証の種類

●個人認証の利用頻度と不便さ

入退室で良く用いられているオフィスでのICカードの利用頻度を調べてみると、1日に6回以上という人が66.5%もいることがわかりました。

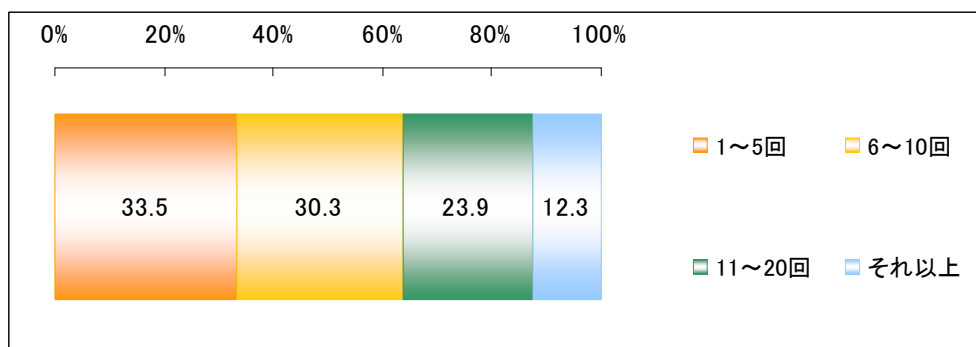


図4 オフィスの中でのICカードの利用頻度

このように頻度が非常に高いので、小さな困りごとでも積み重なって非常に不便さを伴うことになります。困りごとの例としては、例えば図5に示すようなものがあります。



図5 ICカードの困りごと例（無理な姿勢、挿し忘れ、手が届きにくい）

図5は、左から、首から下げたヒモの長さの制約や荷物を持っているので無理な姿勢になっている様子、P Cに社員証を挿したまま、うっかり部屋の外に出てしまい戻れない様子、手が届きにくい様子を表しています。

●UD マトリックスを利用した課題分析

今までに述べてきたような個人認証における課題を、UD マトリックスを使って体系的に整理してみました（図6）。

横軸にユーザー分類、縦軸に入退室のタスクをとって、分析しています。

詳細は省略しますが、視覚に関しては、リーダーを見つけ、タッチして入るタスクで、聴覚に関しては開錠の確認タスクで、運動機能に関してはタッチして入るタスクに課題がありそうなのことがわかりました。

特に、開錠の確認は、インターネット調査結果（図7）でも、音や音声で行なっているという人が72.5%と大多数であり、ここで、聴覚に頼れない場合にどのような解決策があるのか考えてみることにしました。

	感覚機能					運動機能	
	視覚			聴覚		操作	移動
	全盲	弱視	特殊な状況	聾	難聴	...	...
準備	リーダーを見つけ、タッチして入る						
認証						タッチして、入る	
入室							
確認				開錠の確認			

図6 UDマトリックスによる分析（概略）

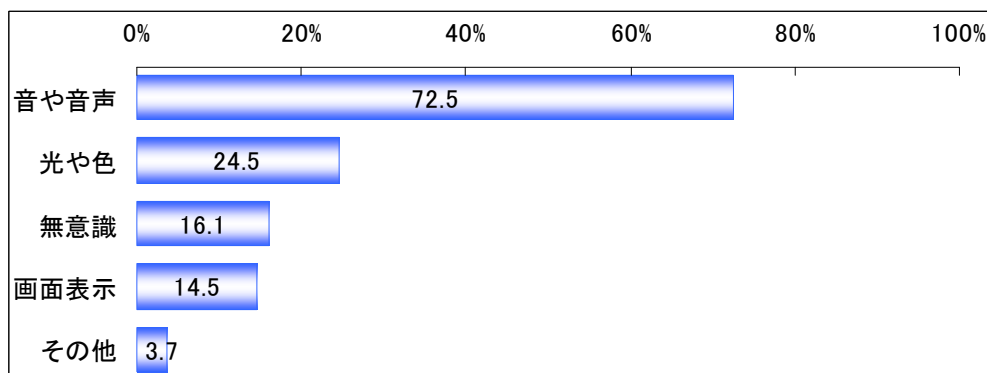


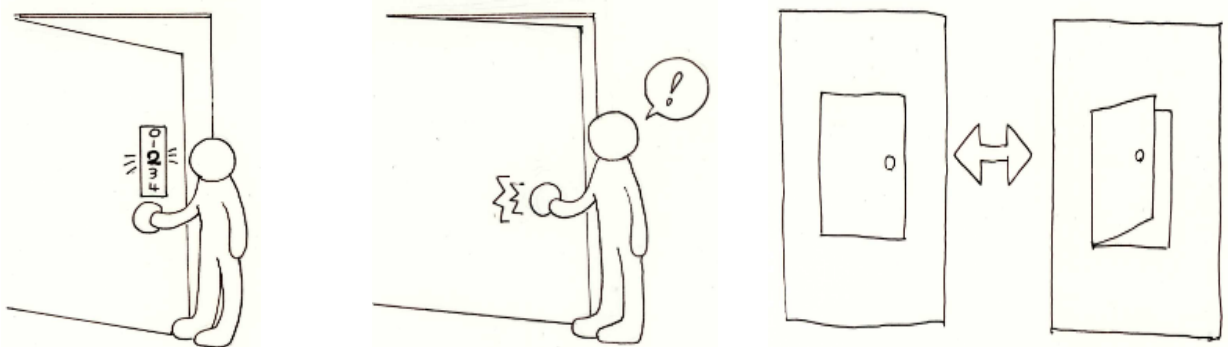
図7 開錠の確認方法（複数回答あり）

●筑波技術大学との共同研究

筑波技術大学は、視覚と聴覚に障害のある学生さんが学んでいる国立大学です。産業技術学部は聴覚障害者が学んでいます。この学部の山脇博紀准教授と学生さん8名と共同で、個人認証システムのUD課題把握と解決策の検討を行ないました。

学生さんには、聴覚に限らず、個人認証システム全体の課題を俯瞰、分析してもらいました。結果的には、図6と同様に聴覚の項目では、開錠確認のところに課題が集中していることがあらためて確認できました。

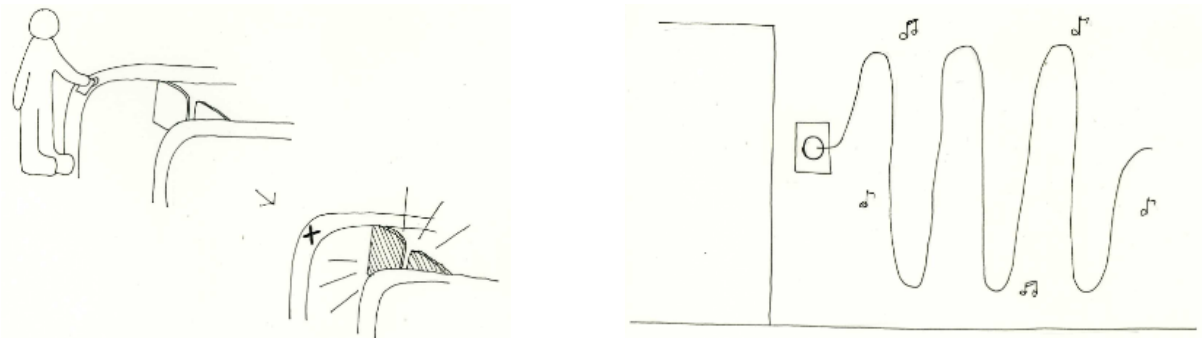
次に、課題を解決するアイデアを出してもらい、私たち労働環境PJとのワークショップでディスカッションしました。



開場している残り時間を明示する

開錠を振動で知らせる

開錠をアニメーションで知らせる



カードリーダーではなく動作部(フラッパーゲート)が光る

高い音と低い音を混合して知らせる

図8 解決のアイデアスケッチ

図8にアイデアスケッチを示しました。

最後の例は、学生さんに教えてもらったことですが、一口に難聴と言っても、高い周波数の音だけが苦手な人、低い周波数の音が苦手な人が居る、だから、両方の音を混ぜて知らせることで、どちらか片方は聞こえる、という状況を作り出せるのでは？というアイデアです。

また、ここで出されたアイデアを中心に、ワークショップで実際のユーザーの動きをシミュレートして、検証してみました。

特徴的な動作が1つ見つかったので、この点を説明します。

カードリーダーを見つける(確認する)、カードをかざす段階では、ユーザーはカードリーダーを見えています。ところがその直後、すぐに視線は次の動作を行なうドアノブに移っていることがわかりました。

このため、開錠／エラーを示す場所がリーダー近辺だと、そこは見ていないことになります。
すると具体的な解決策は、視線の動きを考えると

- (1) ドアノブ近辺で情報提示を行なう
 - (2) カードリーダーは（視線の範囲にあるように）ドアノブの近辺に設置する
- という2通りがあることになります。

同様に、振動で情報提示するのもリーダーではなく、次の動作を行なうドアノブである方が良いことがわかりました。

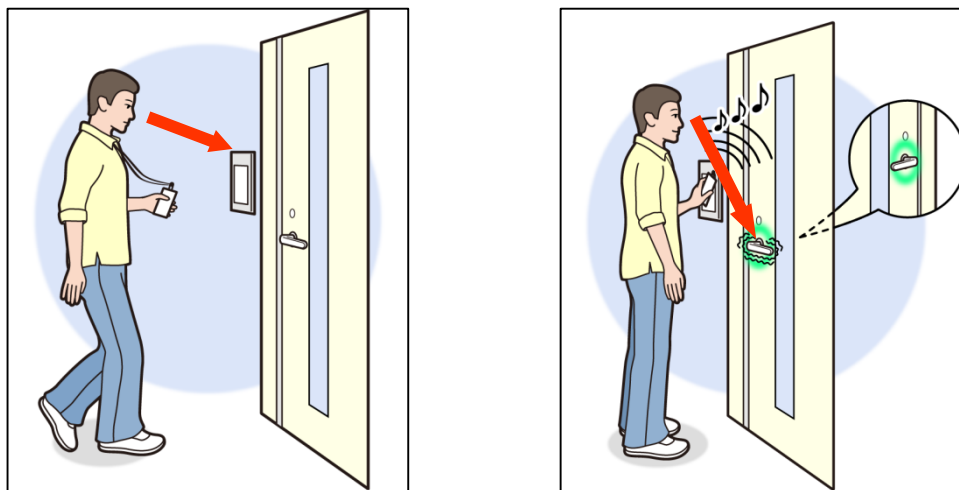


図9 視線の動きと情報提示場所の関係

●まとめ、今後の活動

オフィスセキュリティのUDについて、課題把握と問題解決策を探りました。一般に聴覚に頼っている「開錠の確認」を中心に、筑波技術大学 山脇准教授および学生さん8名と共同研究を行ない、あらためて課題把握と解決策のアイデア出し、およびワークショップにおける検証を行いました。

検証の結果、ドア開錠の情報提示は、ドアノブ近辺で行なうことが良い、等の結論を導き出すことができ、オフィスセキュリティのUDの解決策をまとめました。

今回は聴覚に焦点をあてて解決案の具体化を行なったが、今後は範囲を広げて、オフィスセキュリティのUDの進化を図りたいと考えています。

世界の UD 動向

■カラーユニバーサルデザイン機構がバリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰で「内閣総理大臣表彰」を受賞！

IAUD 準会員の NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）が「平成 22 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」において、極めて顕著な功績又は功労があったと認められる個人又は団体に対して贈られる「内閣総理大臣表彰」を受賞。去る 12 月 7 日に首相官邸にて授賞式が行われ、同団体の武者廣平理事長に管内閣総理大臣から表彰状と記念の盾が授与されました。同表彰は CUDO の他、日本理化学工業 株式会社の 2 件が受賞しました。



また、同じく IAUD 会員からは「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」として同賞 6 件のうち 2 件、東京電力株式会社と株式会社日立製作所のユニバーサルデザイン出前授業プロジェクトチームが受賞しています。

この他には「内閣府特命担当大臣表彰奨励賞」2 件が選出されていますが、合計 10 件の受賞者のうち 3 件が IAUD 会員ということで、IAUD 会員のさまざまな UD に対する取り組みが高く評価されたと言えるのではないのでしょうか。

受賞者および活動概要について詳しくは以下の内閣府のサイトをご覧ください。

<http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/h22hyoushou/gaiyou.html>

＜ご参考＞

「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」について

1. 目的：この表彰は、高齢者、障害者、妊婦や子ども連れの人を含むすべての人が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード、ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインを効果的かつ総合的に推進する観点から、その推進について顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を顕彰し、もって、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する優れた取組を広く普及させることを目的とする。

2. 表彰の対象：バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進に関して、施設の整備、製品の開発、推進・普及のための活動等において、極めて顕著な、又は特に顕著な功績又は功労のあった個人又は団体

3. 表彰者：極めて顕著な功績又は功労があったと認められる者については内閣総理大臣、特に顕著な功績又は功労があったと認められる者については内閣官房長官（ただし、高齢社会対策又は障害者施策を担当する内閣府特命担当大臣が置かれている場合には当該大臣。以下略）

（「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰要領」より

<http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/b-hyousho.html>）

■サステナブルデザイン国際会議「地方でクリエイティブに働く・生きる」参加者募集中！

2011 年 2 月に山形県の東北芸術工科大学で開催される「第 5 回サステナブルデザイン国際会議 Destination 2010-2022」の本会議を前に、サステナブルなコミュニティ、ローカリティについて考えるセミナーが 10 月から開催されています。第 3 回目となる今回は、クリエイティブな仕事だからといって、必ずしも大都市が仕事場である必要はないのでは？地方に拠点があるからって活動の範囲が狭められるわけではないのでは？などデザインのローカリティがテーマとなっており、現在参加者を募集しています。



＜開催概要＞

名称：サステナブルデザイン国際会議－ Small Conference #03 『地方でクリエイティブに働く・生きる』

主催：サステナブルデザイン国際会議実行委員会

日時：2011 年 1 月 22 日（土） 14:30～17:00

会場：東京ミッドタウン デザインハブ インターナショナル・リエゾンセンター

〒107-6205 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー5F

プレゼンテーションテーマ：生活圏の重なりが作るローカリティ～仙台の事例

参加費：2000 円（定員：70 名、要事前申込み → <http://www.sustainabledesign.jp/>）

＜スピーカー＞

・鹿野 護（かのまもる）

アートディレクター、ビジュアルデザインスタジオ WOW の仙台デザインユニット wowlab チーフ
ビジュアルアートディレクター、「logue」ボードメンバー

・小川直人（おがわなおと）

プランニング・ディレクター、せんだいメディアテーク学芸員、「logue」ボードメンバー

＜ファシリテーター＞

・久下 玄（くげはじめ）

プロダクトデザイナー、tsug.llc 代表、サステナブルデザイン国際会議実行委員）

プロジェクト Logue（ログ）について

仙台市のクリエイティブ産業振興策に関わった4人が2007年に立ち上げたプロジェクトを前身とする。創造的な仕事のあり方と、それが都市においていかに持続し、循環するかを問いながら、従来の地域性をネットワークとテクノロジーの今日に生きる生活圏としてとらえ、これから新しい価値観を作りだすであろう人々と生きた対話の場づくりに関心をもって活動している。

<http://www.project-logue.jp>

お問い合わせおよび申込みは以下の事務局またはサイトをご覧ください。

サステナブルデザイン国際会議 事務局（LLP エコデザイン研究所内）

105-0013 東京都港区浜松町 1-22-8 1F

tel：03-6826-1511 fax：03-3578-1459

<http://www.sustainabledesign.jp/>

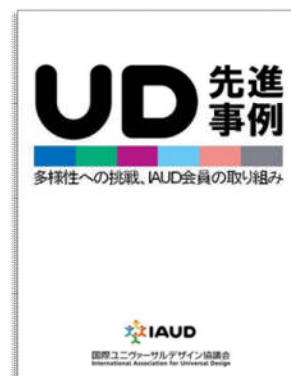
■「UD先進事例 多様性への挑戦、IAUD会員の取り組み」電子書籍で発刊！

幅広い領域にまたがるIAUD会員の先進的な取り組みが一冊の本になりました。

本書は、IAUD会員向け月刊誌「IAUD Newsletter」で約2年半の間に掲載された32社・団体の取り組み記事をもとに一冊にまとめたものです。

また、本書オリジナルコンテンツとして静岡文化芸術大学の河原林桂一郎副学長に『企業や社会におけるUDの動向と今後の方向性』と題して書き下ろしていただきました。

UDの原点は多様なユーザーを理解することであり、対象が多様であることは同時にアプローチも多様になりますが、本書は、さまざまなデザイン領域の基本事例として、また企業経営や商品企画にUDやダイヴァーシティの考え方を取り入れるための参考事例としてなど、幅広くご活用いただけます。



<主な内容>

推薦の言葉：「人にやさしい」からはじまるイノベーション

経済産業省製造産業局デザイン・人間生活システム政策室長 廣瀬 毅

第1章 企業や社会におけるUDの動向と今後の方向性

静岡文化芸術大学副学長 河原林 桂一郎

第2章 UD先進事例（32社・団体）

掲載企業・団体（本書掲載順）：東京電力、パナソニック、富士通、日立、トヨタ自動車、TOTO、リコー、岡村製作所、日産自動車、大日本印刷、東芝、三菱電機、イトーキ、積水ハウス、コクヨファニチャー、INAX、丹青社、博報堂ユニバーサルデザイン、静岡県、リムコーポレーション、東洋インキ、セイコーエプソン、東急車輛製造、ダイワハウス、アップアローズ、浜松市、静岡文化芸術大学、ユニバーサルイベント協会、ヤマハ、ユーディット、NEC、バンダイ

※本書をご購入いただいた方で、視覚障がいやディスレクシアなどの特性により、読み上げ可能なテキストの電子データ（.txt で作成）を必要とされる方にテキストデータをご提供させていただきます。詳しくは本書 巻末の【テキストデータのご案内】をご覧ください。

●本書はオンライン書店 shinanobook.com にてお求めください。

価格：1,890円（定価1,800円＋税）

A5判 256ページ

出版社：株式会社UDジャパン



●問い合わせは 国際ユニヴァーサルデザイン協議会 事務局まで

【編集後記】○「世論」とは一体、何なのだろう。テレビの番組や新聞記事で、最近は国会での議員質問でも、「世論」という言葉をよく耳にする。政府の発表した政策や方針、社会を揺るがす事件、新しいライフスタイル・・・、それらを解説する際によく使われる言葉である。「巷では・・・」や「・・・という声が高まっている」なども同様に、普通に聞いていると抵抗なく耳に入ってくる。世の中では、そのような意見や考え方を持っている人が大勢いる、マジョリティーを占めている、という意味のはずである。変だなと思わなければ、その情報は簡単にインプットされてしまう。しかし、100%言われる通りだと思えずに違和感のあるものに、時々遭遇するのも事実である。一方的ではないか、近視眼的だ、本当にそうか・・・といったことを感じることも多々ある。世論を知るには、問題となる事柄が発生した都度、アンケート調査を機動的かつ大々的に実施する以外にないはずである。しかし、そのようなアンケート調査があるとは思えない。また少ない母集団のアンケートでは、設問の文章いかんによって結果が異なることは周知の事実でもある。「世論」と認識されているものを注意深く観察すると、ある事実突き当たる。情報を発信する人の意見を後押しする存在になっていることである。全くの嘘ではなく、「そうかもしれない」と思ってしまうのだから、始末が悪い。逆に考えると、記事を書く記者・編集者や番組の司会者・プロデューサーなどのロジック・考え方に合致していることを、彼らは「世論」と言っているのではと、思えてくる。全く同じ数字を解説する場合でも、伝えるべきこと・重要な点に対する見識やセンスが違えば、全く違う記事になってしまう。情報を受ける側としても、事実は何なのかを見極める見識とセンスを養うことが、これまで以上に必要であろう。(矢)

○佐賀県の温泉地として知られる嬉野市で開催された UD 全国大会に参加してきました。IAUD もこの大会を後援し、初日 21 日に成川理事長が事例発表として IAUD 紹介と浜松での国際 UD 会議の報告を行いました。基調講演では古川佐賀県知事が「佐賀から広がるユニバーサル社会」と題し、「UD が『配慮』ではなく『前提』である社会を目指している。」と話されるなど、UD を施政の核にすえて幅広い取り組みがなされていることが伝わってきました。また、交流会と分科会の会場となった旅館 和多屋別荘の社長で嬉野市の商工会会長でもあり、佐賀嬉野バリアフリーツアーセンターの会長も務められる小原健史氏は、UD を社会貢献ということだけでなく、嬉野温泉の観光振興策として実際のビジネスに生かそうと、今回の大会を契機に活発な活動を展開されています。今回で第 5 回目の UD 全国大会は、2007 年の熊本県から 3 年ぶりの開催ですが、市民あげての心のこもったもてなしと、温泉にもたっぷり浸かり心身ともに暖まる 2 日間でした。詳しい内容は来月号の Newsletter でご報告しますのでお楽しみに。(薦)

IAUD Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報をお寄せください。また、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報もお知らせください。ご連絡は、news@iaud.net へ直接、メールをお送りいただくか、事務局あるいは情報交流センターまでお問い合わせいただいても結構です。

無断転載禁止

IAUD Newsletter vol.3 No.9

2010 年 12 月 24 日発行

国際ユニヴァーサルデザイン協議会

事務局 : 225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110

電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417

e-mail: info@iaud.net

情報交流センター: 104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9
(IAUD サロン) トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847

e-mail: salon@iaud.net